

## つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書（令和5年度）2023

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場所	会員参加数
	11	25	土	8:30	15:30	毛呂山大類の森	4名
活動名称	大類の森プレーパーク秋						報告者：吉井 優

### 1、活動目的

我々つるがしま里山サポートクラブの理事を務める毛呂山町の小澤弘さんが地元毛呂山で、2020年に「里山サポートクラブもろやま」を立ち上げました。鶴ヶ島での経験を活かし、地元の樹林地を整備し、子どもたちに楽しい野外体験を提供して地元を盛り上げようという趣旨です。

2021年から子ども夢基金の自然体験助成に応募し、大類の森プレーパークを始めました。鶴ヶ島では、2013年から森のプレーパークを開催し、地域の子どもたちに親しまれてきました。これを近隣の市町村にも広まってほしいと願っていました。坂戸市では、「一二三富の会」が、にっさい堀米の森プレーパークを開催しています。子ども夢基金の助成による資金調達や子供たちに提供する森の遊びについて我々のノウハウを活かしながら、各地域の特色を取り入れ子どもたちの自然体験が広がっていくのは我々の大切な活動目的です。

### 2、活動内容ほか

夏に続いて秋のプレーパークを開催しました。綱渡り、ハンモック、ブランコ、竹細工体験、バンブーパンと、史跡散策を行いました。今年一番の寒波襲来となり、バンブーパンが大人気でした。綱渡りもいつものとおり人気があり、10回以上の体験者が続出しました。この秋に設置したスタードームは、大類の森の象徴として、目立ち、お昼ご飯を食べる場所として、有効利用されました。鶴ヶ島でも、2010年に東市民センター庭に設置しましたが、毛呂山のほうが大きくて出来が良く、かっこよかったです。

### 3、評価：

大類の森は、事前予約が少なかったことに加えて、当日参加も、寒波の影響か、少数となり、子どもの参加者は18名でした。夏も10名程度でしたので、2度とも申請人数の半分をきってしまいました。夢基金のルールにより、申請額の半分以下となる可能性大です。今回鶴ヶ島からお手伝いに行きましたが、謝金は辞退しました。参加した家族は、雑木林の木陰の気持ち良さを体験し、大類の森の価値を理解してくれたものと思います。来期は、子どもの参加者をどう集めるかが大きな課題です。11月のプレーパークでは、坂戸の堀米の森だけ、申請人数を超えました。坂戸の子供たちは自然体験の要望が多いようですので、坂戸でもアピールをすることも検討するようです。鶴ヶ島でも、坂戸のプレパにお手伝いに行きますので、現場で積極的にアピールする予定です。

### 4、課題

今回、つるがしま里山クラブからの参加者が4名で、綱渡りのロープ張りなどに、活躍してもらい、毛呂山の方々と交流が深まりました。次回もお願いします。

<里山参加会員> 吉井、柳川、石川、阿部

<活動写真>

